

奉仕を通じて平和を Peace through Service

1963年3月23日創立 週報2410号

第2730地区

鹿児島西ロータリー・クラブ



第2457回例会

6月はロータリー親睦活動月間

平成25年6月5日

●例会場 〒892-0828 鹿児島市金生町3番1号 山形屋1号館7階 社交室 毎週水曜日 12:30~13:30
●事務所 〒892-0828 鹿児島市金生町3番1号 山形屋1号館9階 ☎223-5902・FAX 223-7507

会長 染川 周郎
幹事 川畑 宏二
会報委員長 上村 國博

本日の主要
プログラム

クラブフォーラム

- (1) 国歌斉唱・ロータリーソング (それこそロータリー) (2) 会長あいさつ
(3) ゲスト・ビジター紹介 (4) 会務報告 (5) 出席報告 (6) ニコニコBOX披露

会長挨拶 染川 周郎

「蒲生のサムライ会社にみる奉仕の精神」

長年の知人に蒲生町出身の方がいらっしゃいます。ある時、この方から、自分は蒲生のサムライ会社から学費を出してもらって旧制中学、海軍兵学校へと進学できたという話をお伺いしたことがあります。

蒲生のサムライ会社については、司馬遼太郎が「街道をゆく3」で詳しく紹介していますが、蒲生の土族はなかなか面白いことを考えたものだと感じます。

司馬さんは、語ります。

「島津氏の軍制は鎌倉風で、戦国期においても城下集中主義をとらず、その領土の各地に郷土団を居住させていた。蒲生の地は現在もそうであるように基盤の目に町づくりされ、そこに居住して攻防に任ずる郷土の数はざっと九十軒ほどであった。

が、この土地は元来が痩せ地なのである、山林が全体の70パーセントを占め、畑が三百町歩、水田はわずか百十町九反半にすぎなかったため、蒲生土族は紙すきなどをして自活せざるをえず、薩摩藩の郷土団のなかではやや貧窮な部類に属していた。貧窮だったからこそ明治の廃藩置県という土族瓦解のとき、うまく生きのびる智慧が湧いたのかもしれない。—蒲生衆のために藩有林や藩有の牧場を払い下げてください。

と旧藩に請願し、意外にも許可された。まったく意外というほかない処置で、こういう事例は薩摩藩の他の地域にもなく、むしろ全国的にも土族の特権が経済的に保護された例など皆無であった。なぜうまくいったかについてはいくつかの理由が考えられる。蒲生衆が政治的な立ちまわりがうまくいったということではなかった。むしろ逆だった。この衆は藩内でも醇朴で知られ、たとえば有名な関ヶ原の退却戦でも最後まで踏みとどまるなど、どの戦場でも損な役まわりをひきうけてきた。

—蒲生衆のいうことならきいてやれ。

という同情が、藩の瓦解のとき藩幹部にはあったにちがいない。貧乏であることも同情されていた。さらには蒲生衆は、藩財産を頂戴するにあたってその

受け入れ組織をつくって陳情したことも利口だった。「蒲生土族共有社」

という名前の組織をつくったのである。しかも目的を明快にしたことも利口だった。

「子弟の東京遊学の学費にあてる」というのである。

かれらは「共有社」の土地に植林をし、牧畜をした。その果実は社員に平等に配分された。その金のおかげで蒲生旧土族の子弟は鹿児島市の旧制中学に行ったり、東京の大学に行くことができ、このためこの貧窮な町が、明治初年から上級教育への就学率が高かった。

「明治六年、長谷場弥七に金三百円をあたえて東京へ留学せしめたのが、蒲生出身の最初の書生である」と、町役場の正史である「蒲生郷土史」に書かれている。

さらに、司馬さんの話は終戦直後、米軍が「明治維新でサムライが無くなったはずであるのに蒲生だけでなおそれを続けているのはけしからん」というので共有社の解散を示唆した際のことにまで続いています。

「—かくして」

と町史の文章はやや悲壮味を帯びる。「土族会社は七拾年の伝統ある歴史を閉じ、新たな目的と使命達成に発展的解消をするに至ったのである」とある。ただし実際の上ではさほどの変化はなかった。

—平民も入れればよからう。

というので有資格者の幅をすこしひろげ、「蒲生殖産興業株式会社」という名称にかえたぐらいのものであった。株式会社になっても山の木を切っては金にし、今も東京へ出る青年のために学資貸与が続いている」とこの愉快な話は続いていくのです。

なにやら「米山記念奨学金制度」とは一味違ったものと合理的な且つなんとなくユーモラスな学資援助制度を蒲生ではやってきたのだなと感心させられます。

◇前回の例会(5月29日)の報告 ◇前々回の例会(5月15日)の訂正

会員数	79 (72) 名
出席数	41 名
出席率	56.94 %

出席率	54.79 %
訂正出席数	63 名
訂正出席率	86.30 %

いざ往かん

市川 伊三夫様
(東京銀座R・C, P・G)

いざ往かん 往きてまだ見ぬ 山を見ん
この寂しさに 君は耐うるや (若山牧水)

私の、60年をこえ、今尚つづく長いビジネスのキャリア。この歌を寂しく口ずさみ乍ら夜遅く、家路に急いだことが一体何回あったろう。これに失敗したらいさぎよく会社をやめようと思いつつ。

社会へ出て勤めている会社で大問題が起こる。自分の部署ではないからいいが、担当は大変だと思い同情する。暫くすると上司と呼ばれ、“君がやってくれないか”とお鉢が廻ってくる。「冗談じゃない」と峻拒するが、頼まれ、頼まれ、結局引き受けたことが、わが人生数えきれない程あった。それは今も続いている。

“神はこの試練に耐えうる人へのみ、解決を委ねる”という聖人の言葉が、今や大好きになってしまった。

ロータリーの前途は多難である。世界もそうだが、とりわけ日本はその活性化を達成するに多くの難題を抱えている。誰かが直さねばならぬ。直す人にとっては、第一の敵は仲間・友・先輩・後輩になる。本人にとってそれは寂しさの極限といえる。正に“この寂しさに君は耐えうるや”だ。

でも私達は立ち上がらなければならない。誰に頼むのではなく、先ず第一に自分が立ち上がるべきである。“独立自尊”とは正にこのことをいう。真に人の先頭に立とうと思ったら、自らが少数意見であることを覚悟し、その為に起こるアンシャン・レジームの抵抗・不満程寂しいものはない。

でも心配しない方がよい。改革が成功すればいつもの仲好しは知らぬ間に何食わぬ顔して君のそばに戻ってくる。

さあ、皆さん、いざ往かん！

- 1) 計画は極力デジタル化する。結果は3ヶ月毎にチェック。反省すべきところは早く直す。
- 2) 「晦日に論語をよみ始める」この先人の数えを胸にきざみ、思いついたらすぐ行動する。これが年をとっても若さを保つ秘訣。「そのうち」「来月になったら」「どっこいしょ」「誰かが言っている」「みんな言っている」は封印。
- 3) 夢は大きく、しかも形にする。その形を毎日頭に浮かべる。そしてその達成を信じ、且つ祈る。

(地区協議会 講演より)

前回の例会記録 (5月29日分)

〈プログラム〉

クラブ協議会 (地区協議会報告)

〈ビジター〉 なし

〈5月在籍表彰〉

41年	水淵 清治君	25年	須田 正己君
20年	玉利 賢介君	18年	天本 美信君
12年	有村 仁志君	6年	上村 國博君

〈会務報告〉

1. 6月のロータリーレートは1ドル100円となります。(現行は98円です)
2. 鹿児島ユネスコ協会より、「書き損じハガキキャンペーン」への協力に対して感謝状が届いております。随時、受け付けておりますのでご協力お願いいたします。
3. 本日は、米山ランチにご協力いただきありがとうございます。

BOX

長柄 英男君

26日の宮崎の地区協議会には、多数ご出席をいただきました。ありがとうございました。

いよいよ近づいてきました、よろしくお願い申し上げます。

坂元 利郎君

先週の例会で卓話の時間をいただき、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

小計 5,000円 累計 422,000円

次週予告

6月12日(水) 12:30～ 山形屋

「ASEANとTICAD」

弓場貿易(株) 代表取締役 弓場 秋信様

懐かしの流行り歌 男の涙

おまえを一人で 死なせるものか
死ぬときやおれも 一緒だよ
苦勞ばかり かけてきた
ばかな男の 目になみだ

(歌) 北島 三郎

No. 36



鹿児島西ロータリークラブの歌

作詞 池田 広 作曲 鎌田範政

1. 燃える心の桜島
友愛深き城の山
育む「寛容」我がつどい
奉仕の理想打ちたてて
かたく結ばん西クラブ

2. あつき心のともしびに
愛情にじむ永遠の道
つらぬく「真実」ともどもに
奉仕と親睦調和して
今日も集う西クラブ

2013-14鹿児島西RC理事・役員・委員会構成(案)

2013/7～2014/6

(役員・理事)	会 長	長柄 英男	(役員・理事)	副会長	鮫島 信一
(役員・理事)	幹 事	坂木 貞剛	(選出・理事)	副幹事	七枝 敏洋
(選出・理事)	職業奉仕委員長	日高 好久	(役員・理事)	直前会長	染川 周郎
(選出・理事)	社会奉仕委員長	平野 次秋	(役員・理事)	会場監督(SAA)	竹下 威
(選出・理事)	国際奉仕委員長	庵木 英雄			
(選出・理事)	新世代委員長	大山 康成	副SAA	海江田嗣人	菊永昭二郎
(役員・理事)	会 計	須田 正己	会計監査	徳留 忠敬	

委 員 会	委 員 長	副委員長	委 員			
クラブ奉仕委員会	鮫島 信一		迫田 英介	久保 眞介	坂元 利郎	田中 藤雄
			中園 雅治	上之園正幸	三木 武幸	藤安 秀一
会員増強・維持	迫田 英介	萩原 徹	玉川 哲生	岩田 泰一	高山 義則	
会員選考／職業分類	久保 眞介	森 俊英	水淵 清治	村田 和雄	前田 義博	
出 席	坂元 利郎	濱崎 一郎	蓑田 満康			
ロータリー家族・親睦	田中 藤雄	原 正親	間崎 徹也	江口 清隆	上村 國博	濱田 悦郎
			宮原 英仁	西川 雄一		
ロータリー情報	中園 雅治	有馬 戦男	染川 周郎	川畑 宏二	居迫 大作	
会報・雑誌	上之園正幸	天本 美信	山下 皓三	諏訪園 隆	松下 賢司	伊東 安男
広報・IT	三木 武幸	川村 保夫	深尾 兼好	有村 仁志		
プログラム	藤安 秀一	古木 圭介	岩切 豊	大福 厚範	山元 正明	
職業奉仕委員会	日高 好久	山之氏秀行	太原 春雄	池口 恵観		
社会奉仕委員会	平野 次秋	内村 二郎	小正 芳史	小田代憲一	徳留 忠敬	田畑 勇
ロータリー賞	鮫島 信一	平野 次秋	日高 好久	庵木 英雄	大山 康成	
国際奉仕委員会	庵木 英雄	玉利 賢介	岩男 秀彦	川平建次郎		
米山記念奨学	七枝 敏洋					
新世代委員会	大山 康成	小山 光義	久保 富広			
ローターアクト委員会	鮎川 吉弘	堂園光一郎	櫻美 義明	鉾之原大助		
インターアクト委員会	山元 将孝	新福大一郎	福元 紳一	中村 英幸		
ロータリー財団委員会	玉利 賢介	南 徹	岩元 基	坂之上 忍	山田 晴彬	
CLP検討準備委員会	深尾 兼好		川平建次郎	天本 美信	中園 雅治	内村 二郎

地区事務所固定・合理化委員会委員長
災害復興支援委員会副委員長

山下 皓三

奉仕プロジェクト委員会委員長
危機管理委員会委員

古木 圭介

地区事務所固定・合理化委員会委員
災害復興支援委員会委員
ロータリーの友地区代表委員
ロータリー雑誌委員会委員

深尾 兼好

クラブ研修委員会副委員長

川平建次郎

新世代委員会委員
青少年交換委員会委員長

七枝 敏洋

ローターアクト委員会委員

鮎川 吉弘

地区財務委員会副委員長

須田 正己

VTT小委員会委員

川畑 宏二

米山学友委員会委員

原 正親

基本方針と活動計画

2013-14年度 ガバナー 大迫三郎

『ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を』

ロンD・バートン

『職業奉仕の实践』

ミッション・パッション・ビジョン

『感動』

(ミッション)

1. クラブ会員事業の闊達化
2. 地域社会への貢献
3. 国際社会分野への貢献
4. 新世代の育成
5. クラブの活性化

(パッション)

1. ロータリーブランドの認識
2. 奉仕プロジェクトの実行
3. ロータリー財団の活用
4. 広報活動の徹底
5. 会員の増強維持(4%増)

ロータリーの中核的価値観

「奉仕」「親睦」「多様性」「高潔性」「リーダーシップ」

『職業奉仕』= 職業の発展 = 社会への奉仕 = 人格の陶冶

ロータリーのブランドとはロータリアン自身である。

ロータリアンとは

『職業奉仕を实践して社会に貢献している地域と世界のリーダーのステータスブランドである。』

世界123万人の心をつなぐ

市内RC例会プログラム

東RC	6月6日(木)	今年度IM DVD鑑賞	山形屋	中央RC	6月10日(月)	次年度委員会別打ち合わせ	山形屋
北RC	6月6日(木)	クラブ協議会	レンブラント 鹿児島	東南RC	6月11日(火)	クラブ協議会	サンロイヤル
サザンウインド RC	6月6日(木)	ゲスト卓話 肥薩おれんじ鉄道株 代表取締役社長 古木 圭介様	東急イン	城西RC	6月11日(火)	ゲスト卓話 FC KAGOSHIMA 東 理香様	東急イン
鹿RC	6月7日(金)	各委員会引き継ぎ	山形屋	南RC	6月12日(水)	ゲスト卓話 小原 幸三先生 (米山奨学生担当教授)	サンロイヤル
				西南RC	6月12日(水)	次年度クラブ協議会	ゆうづき